

O-5-4

難治性うつ病の補助療法で生じた嘔気に対して 六君子湯が奏功した 1 例

Efficacy of Rikkunshi-to in nausea induced by auxilliary therapy for refractory depression:A case report

奥平 智之¹⁾²⁾，矢久保修嗣¹⁾，木下 優子¹⁾，小泉久仁弥¹⁾，種倉 直道¹⁾，
上田ゆき子¹⁾，山根 理子¹⁾，濱野 公成¹⁾，田中 均¹⁾，安芸 竜彦¹⁾²⁾，
根本 安人²⁾，佐久間将之²⁾，青木 浩義²⁾，竹野 良平²⁾，高井 良昌²⁾

1) 日本大学医学部内科学系統合和漢医薬学分野，2) 医療法人山口病院（川越）

There have been a number of reports recently on the efficacy of Rikkunshi-to on nausea that was caused by the adverse effect of selective serotonin re-uptake inhibitors (SSRI). The authors administered a small quantity of aripiprazole (APZ), a new antipsychotic agent to a patient whose response to sertraline, an SSRI, was found insufficient. Nausea induced by this medication was treated with Rikkunshi-to, which successfully eliminated the condition. The example seen in the current case attests to the possibility that Rikkunshi-to may be effective in relieving the patient from nausea provoked by APZ

【緒言】

近年，SSRI の副作用の嘔気に対する六君子湯の効果については報告が多い。今回，我々は SSRI(選択的セロトニン再取り込み阻害薬)である Sertraline(SER)で効果不十分であった難治性うつ病に対して，補助療法として新規抗精神病薬である Aripiprazole (APZ)を併用した。その結果，生じた嘔気に対して六君子湯を試みたところ，嘔気の消失を経験したので報告する。

【症例】

30 歳男性《主訴》嘔気，食欲不振《経過》X 年 1 月にうつ病と診断。SER を漸増し，100mg で 2 ヶ月様子をみたが，効果不十分のため，X 年 4 月に APZ3mg 追加投与したところ，翌日より嘔気，食欲不振が出現。T 社六君子湯エキス剤 7.5 g /日を試みたところ 6 日目で嘔気はほぼ消失し，2 週間後より食欲もみられるようになった。APZ3mg を追加投与してから大声は消失し，抑うつ症状は徐々に軽快した。

【考察】

APZ の添付文書では，嘔気 3.6%，食欲不振 6.2%，体重減少 9.2%とある。APZ は，ドパミン D₂ 受容体に対し partial agonist として働く。脳内でドパミンが過剰に放出されている時には遮断薬として抑制的に働き，逆にドパミン不足時にはドパミン作動薬として刺激する方向で作用し，同様に，セロトニンに対しても調整的に作用すると言われている。本症例では APZ の 5-HT 系への関与が嘔気に関与した可能性が考えられる。本症例を通して，APZ が関与した嘔気にも六君子湯は有効である可能性が示唆された。